

# AMCoR

Asahikawa Medical College Repository <http://amcor.asahikawa-med.ac.jp/>

旭川医科大学研究フォーラム (2004.12) 5巻1号:86.

【学会の動向】第21回日本眼循環学会報告

吉田晃敏、石子智士

## 学界の動向

# 第21回日本眼循環学会報告

吉田 晃敏・石子 智士\*

第21回日本眼循環学会は、旭川医科大学眼科学講座吉田晃敏を会長に、平成16年7月16日(金)、17日(土)の両日、旭川グランドホテルで開催されました。

吉田は、1998年この学会の前身である「眼微小循環研究会」の代表世話人となり、3年前から「日本ICG蛍光造影研究会」との合同研究会の開催を推進してきましたが、昨年12月1日に「日本眼循環学会、Japanese Society for Ocular Circulation」を設立しました。本学会は、「眼微小循環研究会」の開始年から数えて21回目になりますが、実質的には日本眼循環学会の旗揚げの会でありました。学会前日の15日に本学会の第1回理事会が開かれ、吉田晃敏が初代の代表理事に選出され、総会にて承認されました。

本学会では、「眼微小循環研究会」と「日本ICG蛍光造影研究会」2つの研究会の融合の意義を考へて、眼循環を基礎と臨床の様々な角度から探求するためのプログラムを用意し、招待講演、特別講演、2つのシンポジウムに加え、モーニングセミナーと2つのランチョンセミナーを行いました。この学会の会員数は230名ですが、北海道から九州まで全国各地から75題の一般演題が集まり、400名を超える参加者がありました。そのため、両日とも朝8時から学会を行う強行スケジュールとなりました。また、「明るく自由に参加できる学会へ」というこれまでの合同研究会の流れを踏襲し、ノーネクタイの服装での学会ということにいたしました。

学会第一日目の午前は、血流の基礎や検査法などの一般演題28題からはじまりました。昼には、日本大学駿河台病院の湯沢美都子教授と福島県立医大の石龍鉄樹助教授による、HRA装置を用いた蛍光眼底造影検査についてのランチョンセミナーが行われました。

午後からは、血管閉塞性疾患、腫瘍性疾患などに関する症例報告を中心とした一般演題10題に引き続き招待講演が行われ、米国テキサス A&M 大学の Lih Kuo 教授に、最近いろいろと解明されてきた「網膜循環の血管運動制御」について、貴重なご講演を頂きました。その後、一つ目のシンポジウム「光線力学療法 (PDT)」が行われました。この PDT は、日本では6月に厚生省の認可を受けたばかりの治療法であり、日本での治験を担当した先生方を中心に、その適応、画像の読影、治験の成績、さらには、認可後の治療経験について講演していただきました。

第一日目の学会終了後、「イブニング笑」と題した懇親会を、東神楽町の匠工芸の前庭を会場に行いました。「大雪山を望む大地を会場」として、「夕焼けから満天の星空」のもと、北の大地「北海道の食材」を思う存分楽しんで頂くことで、すなわち「山・海・里のかほり」で皆様をおもてなしをしようと企画しました。幸い天気にも恵まれ、200名を越える参加者からは、記憶に残る素晴らしい懇親会だったと大変好評でした。

第二日目は、米国南カリフォルニア大学の David S. Boyer 教授のモーニングセミナー「Visudyneを用いた PDT の実際」からはじまりました。その後、治療を含めた加齢黄斑変性関連の一般講演17題があり、これに続く特別講演では、名古屋市立大学の小椋祐一郎教授に「網膜微小循環障害」の病態から治療までをご講演頂きました。この日のランチョンセミナーは、香川大の白神史雄教授が塾長となり、4つの大学から選ばれた若手医師が塾生となって、クイズ形式で画像所見を読んでいくというユニークな方法で行われ、旭川医科大学からは高橋淳士先生が塾生として参加しまし

\* 旭川医科大学 眼科学講座

た。

午後からは、淀川キリスト教病院の張野正誉先生と大阪医大の杉山哲也先生をオーガナイザーとして、今いろいろと話題になっている「生理活性物質と眼循環の関連」が二つ目のシンポジウムとして行われました。旭川医科大学眼科の長岡泰司先生もシンポジストの一人として、一酸化窒素の網膜循環における役割について講演いたしました。引き続き、血管閉塞性疾患を中心とした20題の一般講演が行われ全ての演題発表が終了しました。

本学会は、「眼循環」の大きなポイントが全て学べるよう意図し、さらに、最新の治療法に関する情報も

得ることができる内容となりました。また、一般講演の座長を講師・助教授クラスの先生にお願いしたこともあるか、活発な議論が飛び交い、時間を大幅に超過するほどで、非常に有意義な学会でありました。

ここにあらためて、「日本眼循環学会」の設立・開催のため、本学関係者から頂いたご支援、ご協力に、心から感謝致しますとともに、本学会を盛会裡に終了でき厚くお礼申し上げます。

なお、旭川医科大学眼科学講座は、平成17年7月に第43回北日本眼科学会を主催いたします。御支援の程、何卒よろしくお願い申し上げます。